

税が教えてくれた意義と役割

川崎市立西中原中学校 3年 高木 彩音

先日、理科の授業で暮らしを支えるエネルギーについて学んだ。エネルギーを使用する上で多くのメリットがある一方で大きな課題があることを知った。それはエネルギーをつくる際に使用する化石燃料が有限であることや大気汚染による健康被害。また、化石燃料の燃焼による地球温暖化である。地球温暖化が進むと、2100年には最大5・8度地球の温度が上昇し、洪水や干ばつなどの異常気象が頻発、人間の生活基盤が失われるといわれている。地球温暖化を防ぐには二酸化炭素などの温室効果ガスを減らす必要がある。

そこで炭素税がある。1990年にフィンランド・ポーランドで導入されたのを皮切りに、欧州を中心として導入が広がった。炭素税とは電気やガス、石油など地球を汚すモノを対象にかける税金だ。税を課すことでモノの値段が上がり、人々が節約をしようとするのを狙いとする、地球の環境を守る為の仕組みである。炭素税によって集められたお金は地球温暖化対策として、森林の整備や保全・住宅やビルの省エネ化の為に使われる。また再生可能エネルギーの普及を目的として使用されている。しかし炭素税を導入しているのは先進国が殆どで、途上国では導入例が少ないのが現状である。

私は、炭素税を積極的に様々な国が導入していくことで地球の抱える多くの問題の早期解決に繋がると感じた。何より炭素税の導入はSDGs達成への大きな一歩となる。達成すべき17の目標の中には、気候変動に具体的な対策を・海の豊かさを守ろう・陸の豊かさも守ろうというものがある。一人一人がSDGsという地球規模の大きな問題を前にしたとき、自分自身にできることはないように感じてしまうだろう。しかし、国が主体となり問題解決への姿勢を見せることで、問題に対して取り組んでいるのは自分だけではない・自分の行動で変えられるものがある、と一歩踏み出す勇気を与えられるのではないかな。

税の意義と役割について知る。これが最も大切であり、必要なことだと私は思う。私は税の作文を書く決めてから、炭素税以外にも様々な税の種類や役割について調べた。だが今回調べて初めて知った知識が殆どだった。増税に対して不満の声を多く耳にしたが、それは税の意義と役割について「知らない」ことの方が多いためではないかと思う。私も増税されると知ったとき少なからず不満を持っていた。しかしそれは、税について「知らなかった」というのが不満に繋がった要因だと感じる。だから税の作文を書く上で知ったことを周りに伝えていく努力をしていきたい。税金は人と人との助け合いの一環であり、社会をより良くするために使われている。そして、私たち一人一人がその社会を創る第一人者であることを。私が今まで税金によって支えられてきた分だけ伝えていきたい。